

税と私たちの関係は？【指導計画 6時間扱い】

- ①図書室の本は全部でいくら？(図書室の本を買ってくれたのはだれ?)・・・3時間
- ②みんなの願いを実現させるために・・・1時間
- ③私たちの街で税は…？税金の使い道はどのように決められるのだろう？・・・2時間

1時間目  
学習活動

税と私たちの関係は？

税のイメージって？

まず、「税のイメージ」を子どもに問います。子どもからは、「とられるもの」「いやなもの」「消費税」といったマイナスのイメージや「よく分からない」といった意見が出ると思います。

そこで、「税と私たちの関係は？」というこの冊子を貰く学習問題を提示し、自分たちの身近なものを通して税についてこれから調べていくことを説明します。そして、子どもにとって身近な図書室から持ってきた1冊の本を提示します(結構高めの本を持ってくるとよいでしょう)。そして、値段クイズをします。答えが出た後、次のクイズとして「図書室にある本は、全部でいくらぐらいになるのかな？」と問います。

- ◆お金を取られる
- ◆嫌なもの
- ◆消費税
- ◆必要なもの
- ◆よく分からない など

図書室の本は全部でいくら？

一つの棚の本の値段 × 棚の数 = 図書室の本の総額

300万円以上!

実際に図書室に行って調べ、本の量から総額の大きさを実感させることが大切です。そして、本代がこんなにかかっているのに、無料で借りれることから、一体誰がこんなに本を買うことができるのかを予想し、次時へつなげます。

こんなにたくさんのお金がかかっている本を一体誰が買ったの??

学校が、勉強のために買っているんじゃないの？

小学生の勉強のために無料で寄付してもらっているんじゃないかな？

◆図書室の本の総額はおよそその値段でよい。

◆あらかじめ棚の数を調べておいたり、グループごとに調べる場所を決めておいたりして、時間をかけすぎないようにする。

板書例

税のイメージ

お金をとられる  
いやなもの  
消費税  
必要なもの  
よく分からない

税と私たちの関係は？

図書室の本は全部でいくら？

図書室写真

一つの棚の本の値段 × 棚の数 = 図書室の本の総額

計算

300万円以上!  
誰が買ってくれたの??



前時の学習問題を解決するために、税の学習資料P2の校長先生の言葉を紹介し、図書室の本に、税金が使われていることを確認します。そして、新たな情報として「小学生一人のために1年間で使われる税金はおよそ114万円」であることを教え、図書室以外に「税金は、学校ではどんなことに使われているの？」という学習問題を作ります。

税金は、学校ではどんなことに使われているの？

実際に、理科室・音楽室・体育館器具室・家庭科室などの特別教室を調べることで、普段何気なく使っている教材に多くの税金が関係していることに気付かせます。

3時間目は、調べたものを発表します。そして、教材以外のものもあることを考えることで、学校には、たくさんのもものが税金で買われ、無料で使えること、そのおかげで、みんなが学習できていることを確認し、学校生活を見つめ直します。

◆「札幌市備品整理票」が付いている物を調べることで札幌市の税金がどのような物に使われているかを確認することができる。

◆教材の値段を提示する。

板書例

税と私たちの関係は？

図書室の本  
**税金**

小学生1年間で  
一人およそ114万円

税金は、学校ではどんなことに使われているの？

学習の道具

- ・テレビ
- ・ピアノ
- ・跳び箱
- ・理科実験器具

学校の施設

- ・学校の建物
- ・体育館
- ・プール
- ・机、いす

学習の補助

- ・給食費
- ・光熱水費

1人1人には

- ・教科書
- ・クロームブック

**たくさん!!**

わたしたちがしっかり勉強できるように  
たくさんの税金が使われている